

鹿島港関東グレンターミナル視察 現場レポート

1. 視察目的

鹿島港は、鹿島臨海工業地帯の産業・物流の拠点として発展した工業港湾であり、同工業地帯に立地する石油化学工業・金属工業とともに発展してきました。近年においては、日本有数の畜産圏である関東地方へのアクセスに優れることから飼料生産を行う穀物供給基地ⁱとして畜産業を支え、ひいては我が国の「食」を支えています。

今回は、鹿島港の背後に立地する飼料生産拠点の現状を把握するため、関東グレンターミナル(株)を視察しました。

2. 視察概要

関東グレンターミナル(株)は、鹿島港に我が国を代表する飼料コンビナートを形成しており、各生産国から大型船舶で飼料の原材料であるとうもろこし等の穀物を輸入・保管の上、隣接する飼料工場で関東一円の畜産農場で消費される配合飼料ⁱⁱを生産しています。



写真中右から：サイロ、アンローダー、大型バルク船

視察当日には、50階建の高層ビル程もある全長229m、最大積載量69,999トンの大型バルク船が接岸し、とうもろこしの荷揚げを行っていました。荷揚げに際しては、1時間に400トンもの穀物を荷揚げすることができるアンローダーと呼ばれる大型荷揚機械を用いますが、大型船のハッチから穀物を吸い上げる様子は、我が国の「食」を支えていることを連想させる壮観なものでした。荷揚げされた穀物は、サイロと呼ばれる保管庫に一時保管されるとのことでしたが、サイロの収容能力は約20万トンもの規模をほこります。20万トンというのは10トン積みダンプ2,000台の積載量に相当する重さですが、このことからサイロがいかに大型のものかお分かり頂けるかと思えます。

今回の視察を通じ、穀物を安定的かつ安価に供給し、我が国の畜産業と食を支えることの重要性を認識することができました。



上：荷揚げ状況
左下：荷揚げ状況（船内） 右下：アンローダー(全景)

3. 終わりに

鹿島港湾・空港整備事務所は、鹿島港をはじめ、茨城港、茨城空港の整備・管理を担っています。港の整備というと馴染みが薄い事柄と思われるかもしれませんが、今回ご紹介した「穀物」も含め、日本の貿易量の99.8%ⁱⁱⁱは港を通じて海上輸送されています。つまり、「港」は私たちの生活に欠かせないものなのです。

ⁱ 鹿島港は、日本における穀物（とうもろこし・大豆・小麦等）の一大輸入拠点です。特にとうもろこし（飼料用）の輸入量は全国第1位（2012年）です。とうもろこし（飼料用）は全国の約18%（2012年）、豆類は全国の約9%（2012年）のシェアを占めています。

ⁱⁱ 畜産業で鶏、牛、豚の餌として用いるために、様々な穀物等の原材料を配合して作られます。

ⁱⁱⁱ 重量ベースです。